

おいしいごはんで つながりづくり

～食を通じた居場所づくり・多世代交流モデル事業事例集～

発行：令和7年3月

編集：社会福祉法人福岡市社会福祉協議会（地域福祉課）

〒810-0062 福岡市中央区荒戸3-3-39 福岡市市民福祉プラザ内

TEL 092-791-6339 FAX 092-713-0778

E-mail: chiiki@fukuoka-shakyo.or.jp



福岡市社協ホームページ

この事例集は、福岡市「食を通じた居場所づくり・多世代交流モデル事業」の委託により制作しています。



目次 [Contents]

- **天真会パブリカ**P03~04
三苫校区(東区)
[社会福祉法人・高齢者福祉施設・民生委員・児童委員]
- **あったかキッチンinこたべ**P05~06
小田部校区(早良区)
[ボランティア・公民館・児童福祉施設]
- **かふえ もりのいえ**P07~08
田村校区(早良区)
[大学・公民館・高齢者福祉施設]
- **紺然想**P09~10
賀茂校区(早良区)
[企業・高齢者福祉事業所]
- **こころふくよか食堂**P11
高取校区(早良区)
[専門職・空き家]
- **みんな食Minna**P12
香椎下原校区(東区)
[ボランティア・コミュニティスペース・大学生]
- **大原すまいるキッチン**P13
大原校区(早良区)
[ボランティア・公民館]
- **長尾じじばば子ども食堂**P14
長尾校区(城南区)
[ボランティア・レンタルルーム]
- **ハレルヤ食堂**P15
三宅校区(南区)
[ボランティア・教会]
- **ワンコインレストラン「ハーモニー」** P16
堅粕校区(博多区)
[子ども会・地域拠点]
- **ひばるん子ども食堂**P17
西花畑校区(南区)
[専門職・教会]
- **こひつじの園ランチカフェ**P18
西高宮校区(南区)
[ボランティア・教会]
- **SOMPO流子ども食堂**P19
鳥飼校区(城南区)・石丸校区(西区)
[企業・高齢者福祉施設]
- **みらいあんこども食堂**P20
吉塚校区(博多区)
[NPO法人・商店街]
- **原四つ角こころ子ども食堂**P20
原西校区(早良区)
[一般社団法人・事業所スペース]
- **飯倉こころ保育園こころ食堂**P21
飯倉校区(早良区)
[専門職・保育園]
- **笹丘ふれあい食堂**P21
笹丘校区(中央区)
[校区社会福祉協議会・公民館]
- **みんなかふえ・あたご**P22
愛宕校区(西区)
[ボランティア・公民館]
- **いただきます(つるたパラデロ)**P22
鶴田校区(南区)
[NPO法人・自治会集会所]
- **ふくふく子ども食堂**P23
名島校区(東区)
[里親・教会]
- **子ども食堂ジョイプレイス福岡**P23
内浜校区(西区)
[ボランティア・教会]
- **九州産業大学美術館**P24
香住丘・香椎下原・香椎・香椎東(東区)
[大学・事業所ネットワーク・公民館]
- ◆ **お役立ち情報**P25~28
・地域との関わりについて
・交える人について
・資金の確保について
・食材等の確保について
・リスクマネジメントについて
・衛生管理について
- ◆ **孤独・孤立のない社会を目指して** P29
- ◆ **相談先・問い合わせ先**P30

○令和5年度・6年度に福岡市・福岡市社会福祉協議会が立ち上げを支援した事例
●既存活動で「食を通じた居場所づくり・多世代交流モデル事業」の趣旨に賛同いただいた事例

「食を通じた居場所づくり・多世代交流をしてみたい」
「どんなふうに始めたらいいのかな」など、
関心のある方は、下記窓口へご相談ください。

- **東 区社協事務所** 〒812-0053 福岡市東区箱崎2-54-27 東区役所別館1階
TEL 092-643-8922 FAX 092-643-8923
- **博多区社協事務所** 〒812-8512 福岡市博多区博多駅前2-8-1 博多区役所6階
TEL 092-436-3651 FAX 092-436-3652
- **中央区社協事務所** 〒810-8622 福岡市中央区大名2-5-31 中央区役所1階
TEL 092-737-6280 FAX 092-737-6285
- **南 区社協事務所** 〒815-8501 福岡市南区塩原3-25-1 南区役所別館
TEL 092-554-1039 FAX 092-557-4068
- **城南区社協事務所** 〒814-0103 福岡市城南区鳥飼5-2-25 城南区役所別館1階
TEL 092-832-6427 FAX 092-832-6428
- **早良区社協事務所** 〒814-0006 福岡市早良区百道1-1-1 UMIBE BLD.1階
TEL 092-832-7383 FAX 092-832-7382
- **西 区社協事務所** 〒819-0005 福岡市西区内浜1-7-1 北山興産ビル1階
TEL 092-895-3110 FAX 092-895-3109

(問合わせ先)

社会福祉法人福岡市社会福祉協議会(地域福祉課)

〒810-0062 福岡市中央区荒戸3-3-39 福岡市市民福祉プラザ内
TEL 092-791-6339 FAX 092-713-0778
E-mail: chiiki@fukuoka-shakyo.or.jp



福岡市社協ホームページ

孤独・孤立のない社会を目指して

この事例集では、“食事”を介して地域とのつながりを再構築し、「孤独・孤立」を解消しようとするさまざまな運営主体による取組みを紹介してきました。取組みの名称は、「子ども食堂」という名称を使っている場合も、利用対象を子どもに限定することなく、誰でも利用できるという方針で運営し、子どもから高齢者までのすべての世代で、社会とのつながりを深めたいとの思いが込められた居場所にたくさん接することができました。なかには「地域食堂」と称し、地域の交流拠点としての機能を前面に押し出しているところもありました。

運営主体は、地域団体やNPO法人、福祉施設、大学または企業や飲食店など多岐にわたりますが、すべての取組みに共通するのは、孤立する人々の居場所として安心できる“場”を提供したいとの思いです。その“場”を演出し、行きたいと思わせるための“食事”の存在は、大きな役割を果たしています。多くの取組みを取材する中で、社会とのつながりが弱い人が外に出て社会との接点を持ってもらうための誘いに「〇〇食堂と一緒に食べに行きましょう」との声かけは、効果が高いとお聞きしました。

さらに食堂を利用していた高齢者が、スタッフの気づきによって「いきいきセンター」につながり、介護保険サービスを利用できるようになった事例を21ページで紹介していますが、「気づき」の機能が働くことも、孤独・孤立から脱却することにつながっています。また、開催日を忘れていた認知症高齢者に確認の電話をするなど「見守り」の機能を持つところも数多くありました。

「子ども食堂=子どもの貧困対策」とのイメージもあります。地域活動においては、活動者の思いが第一であり、子どもが置かれている現状や課題に応じた取組みが行われていました。その取組みの中で一つの活動の中に「地域交流」や「福祉的な支援」など、さまざまな側面があり、そこに目を向け、大切にしていけることが食を通じた交流を広げることにつながっているのだと感じました。

「子ども食堂」は、現在、全国的に広がりを見せ、歩いて通える範囲の小学校区にある割合が、全国平均で3割程度(福岡市内は5割程度)となっています。一つの「子ども食堂」や「地域食堂」は月に1回の開催であっても、校区に複数の「子ども食堂」や「地域食堂」があれば、利用者は、複数回利用することができ、より効果が高まると考えられます。

地域性や環境面でのハードルがあるかもしれませんが、この事例集が一助となり、食を通じた居場所としての地域交流の場が広がり、孤独や孤立のない社会へとつながっていくことを願っています。



ロゴ・イラスト kucci

「広がれ、子ども食堂の輪! 全国ツアー」実行委員会作成

はじめに

近年、少子高齢化の急速な進展や、家族のあり方、働き方、住まい方の変化に加え、近隣住民同士の関係が希薄化するなど、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。

このような社会情勢を背景に、社会的に孤立し、それをきっかけに健康障がいや貧困等のさまざまな福祉課題を抱えた方が増えていることが懸念されています。

このような課題を解決し、地域でのつながりを自然に広げるため、地域においては、居場所づくりや見守りの取組みが広がっています。その一つの形として、誰もが日常的に行う「食」を中心とした取組みは、自然な楽しみや交流が期待できます。

このため、福岡市では、福岡市社会福祉協議会と連携し、従前から「子ども食堂」として広がりを見せている「食を通じたつながりづくり」を、独居高齢者などの交流や多世代交流にも生かせないかと、社会福祉施設などに呼びかけ、取組みの支援を行ってきました。

一方で、子ども食堂を実施している団体は、さまざまな思いを持って取組みを進め、子どもだけでなく地域の高齢者など、誰もが参加できる居場所づくりを、創意工夫のもとで既に実施されていました。そこで「食を通じた居場所づくり・多世代交流モデル事業」の取組みの趣旨にご賛同いただける団体には、活動にも役立つ「のぼり」や「エプロン」を提供し、一緒に普及啓発を図りました。

今回、これらの「食を通じた居場所づくり・多世代交流モデル事業」等の取組みについて、連携や協働、活動の工夫などをちりばめた「事例集」としてまとめました。

ここには、立ち上げの支援を行った事例のほか、賛同団体のみなさまの、さまざまな運営主体と活動の場の組み合わせを幅広く紹介しています。また、新しく立ち上げようとする際に参考になるお役立ち情報も掲載しています。

孤独・孤立のない社会を目指して、食を通じた取組みに関心を持たれているみなさまに、ぜひこの事例集を活用していただき、多世代交流の取組みが広がっていくことを願っています。



地域への恩返しに おいしい食事を

社会福祉
法人

高齢者
福祉施設

民生委員
児童委員



天真会パプリカ [社会福祉法人 天真会]

地域の概要

三苦校区は、東区の最北端に位置している。東側には西鉄貝塚線が運行しており、三苦駅が立地している。西側は玄界灘を望む海岸線となっており、海に面した自然環境が豊かな校区。近年は、集合住宅を中心とした宅地開発が進み、人口は増加傾向にある。

小学校、PTA、自治協議会、各町内会が連携し、小学3年生の防災授業への協力や4年生の夏休みの「防災フェスタ」、小学4～6年生を対象とした「防災キャンプ」を継続的に実施して、地域の担い手確保につながっている。

- 人口・世帯数：9,232人・4,209世帯
- 高齢化率：20.5%
- 年少人口率：16.0%（0歳～14歳）
- 単身高齢世帯率：6.7%（65歳以上）

運営団体の概要

- 団体名：社会福祉法人天真会
- 開始：令和5年10月
- 会場：東区三苦2-28-41
天真会地域交流センター
- 開催日：毎月第2水曜
12:00～14:00
- 申込：事前申込制
- 参加費：3,000円（保険料含む）

連携している人々

- 校区自治協議会
- 校区社会福祉協議会
- 民生委員・児童委員
- 三苦営繕お助け隊
（生活支援ボランティア）など

問い合わせ

- 東区社協事務所
TEL 092-643-8922

活動のきっかけと内容

「養護老人ホーム博多老人ホーム」を運営する社会福祉法人天真会（養護博多老人ホーム、軽費老人ホーム長雲荘、居宅サービス微笑園）は、大正11年にその前身である「福岡養老院」を設立し、既に100年を超えて三苦の地で社会福祉事業を続けています。

長きにわたって施設を続けてこられたのは地域の理解があったからであり、「地域に恩返しをしたい」と考え、近隣の高齢者を対象に食事を始めました。

『パプリカ』の名は、栄養価が高い野菜として知られ、なじみやすいことから付けられました。「君を忘れない」という花言葉のように「交流が続くように」との思いが込められています。



活動の工夫

三苦校区の民生委員・児童委員に近隣の高齢者世帯に案内チラシを配っていたが、参加者を募りました。現在では、毎回15名ほどが参加しています。高齢者福祉施設として入所者の食事を調理しているため、衛生面に十分に注意を払い、栄養面にも配慮した食事を提供しています。



季節によっては、敷地内の農園で栽培している玉ねぎやサツマイモなどを施設スタッフと参加者が一緒に収穫。お土産として持ち帰ってもらい、参加者同士やスタッフとの交流も図っています。

今後の展望

ひとり暮らしの高齢者にとって月に1回でも外出のきっかけとなり、「孤独・孤立」の予防につながる効果が期待されていることから、将来的にはスタッフの人数や体制を整えて参加者を増やしていきたいと思い、さらに子どもたちとの交流も考えています。

●衛生管理について

（保健所各区衛生課への相談）

活動内容によっては、営業許可または届出が必要な場合があります。活動を行う場所がある区の衛生課に事前にご相談ください。

https://www.city.fukuoka.lg.jp/hofuku/hokensho/shokuhinanzan/001_shokuhincontact.html

（アレルギー対応）

アレルギー対応のために別メニューを準備することが難しい場合には、あらかじめ参加者・保護者にその旨周知しておきましょう。また、別メニューでの対応ができなくても、下記のような工夫をしているところがあります。

- ・SNSや案内チラシ、掲示などでメニューを事前にお知らせする。
- ・当日のメニューを確認していただき、本人や保護者に判断してもらう。

（食中毒への注意）

食品衛生に取り組むことは、周囲からの理解と信頼につながります。

右記「食中毒予防の6つのポイント」等を参考に食中毒予防に取り組みましょう。

（食中毒予防3原則の徹底）

①食中毒菌を付けない
手洗いの徹底及び使い捨て手袋の正しい着用、容器・器具の使い分けと洗浄・消毒により、食材の汚染防止に努めてください。

②食中毒菌を増やさない
多くの細菌は20～50℃で活発に増殖することから、冷蔵庫は10℃以下、冷凍庫は-15℃以下にし、調理後は2時間以内を目安に提供することを心がけてください。

③食中毒菌をやっつける
加熱調理する食品について中心部まで十分な加熱（中心温度75℃1分以上[ノロウイルスを意識した場合は85～90℃90秒以上]）を行ってください。

家庭でできる 食中毒予防の6つのポイント



食中毒予防の3原則 食中毒菌を「付けない、増やさない、やっつける」

出典：
厚生労働省公式サイト「食中毒」

厚生労働省

実施団体（問い合わせ先）	概 要
社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 電話：092-791-6339 FAX：092-713-0778	企業×子どもふくふくお届け便 定期的（2か月に1回）に企業・団体等からの食材・物品等の寄贈品を福岡市内の子ども食堂へ受け渡し取組み https://fukuoka-shakyo.or.jp/service/parenting/fukufukuotodokebin.html
NPO法人 フードバンク福岡 電話：092-710-3205 FAX：092-710-3206	賞味期限内でまだ食べられるが、印字ミスや箱が壊れたり、規格外として販売できない食品を、企業・農家・個人などから受け取り、食べ物に困っている人や福祉施設等に無償で提供している取組み https://fbfukuoka.net/
ふくおか子ども食堂ネットワーク ☐cafe@fkodomo-cafe.net	食品提供 助成金等で購入・企業から寄付された食品等を「いるかフードバンク」と連携して加盟する子ども食堂などに配付する取組み https://www.fkodomo-cafe.net/about/
NPO法人いるか 電話：092-407-8760 FAX：092-407-8667 ☐general@npoiruka.com	いるかフードバンク（食料支援事業） 企業から寄贈いただいた食品等を九州各県の子ども食堂運営団体に食品を提供することで、九州全域に支援の輪を広げる取組み https://npoi-irukanet.com/home/about/

●リスクマネジメントについて

長く活動を続けていくためには、安全・安心に活動できる設備や体制の整備のほか、日々の活動においても事故がないよう細心の注意が必要です。リスク回避のための事前準備に加え、もし何か起こった時には、どのように対応するか、具体的に話し合っておく必要があります。

（事故・ケガの防止・起こったときの対応）

会場であらかじめ予想される危険は取り除いておく必要があります。会場内外の点検や整備を行い、事故やケガが起きた場合には応急処置等の対応を速やかに行い、その対応と併せて家族等に連絡をとり、状況を伝えます。

また、事故やケガに備えて、保険に加入しておくことをお勧めします。

ボランティア保険（行事用保険）

地域福祉活動やボランティア活動中のさまざまな行事における主催者や参加者のケガや、主催者の損害賠償責任を補償する保険として、活動を始める前に社会福祉協議会が扱うボランティア行事用保険に加入しましょう。

なお、営利企業が実施主体である行事は、対象外となります。ただし、企業内有志の自発的なボランティア活動による行事は補償対象となります。

詳細は、各区社協事務所（P30掲載）にご相談ください。

〔参考：令和6年度の補償内容、保険料（1人あたり）〕

補償金額	ケガの補償	賠償責任の補償	死亡保険金	後遺障害保険金	入院保険金日額	手術保険金	通院保険金日額	対人事故（1名・1事故）	対物事故（1事故）	Aプラン （宿泊を伴わない行事）	Bプラン （宿泊を伴う行事）	Cプラン （宿泊を伴わない行事かつ、参加者が事前に特定できないA1区分の行事）
			400万円	400万円（限度額）	3,500円	入院中の手術 35,000円 外来の手術 17,500円	2,200円	2億円（限度額）	1,000万円（限度額）	A1 1B/28円 A2 1B/126円 A3 1B/248円	1泊2日 241円 2泊3日 295円 3泊4日 300円 4泊5日 354円 5泊6日 359円 6泊7日 364円	A1 1B/28円

施設の持つノウハウを活かして 地域と協働



インタビュー

社会福祉法人天真会

管理栄養士 橘原 由美江さん

■地域の高齢者施設で働く中で



高齢者施設で管理栄養士として20年勤務する中で、食事の重要性を強く感じていました。施設や自分の専門性を活かして何か地域の高齢者の役に立てないかと思うようになり、子ども食堂の高齢者版をできないかと思い立ちました。

ちょうどその頃、孤独・孤立を予防し、つながりづくりを支援する「食を通じた居場所づくり・多世代交流モデル事業」の取組みが、福岡市と社会福祉協議会で始まったと聞きました。それまで隣の美和台校区で週に2回、調理することが困難なひとり暮らしの高齢者に昼食のお弁当を届けて安否確認する「ふれあいランチ事業」を行っていたので、そのノウハウを活用できないかと考えました。

■地域への呼びかけとともに

福岡市社会福祉協議会に相談し、取組みに向けて具体的な計画を立てていくことになりました。まずは小さいエリアから始めることにし、対象者は施設まで歩いて来ることのできる距離の三苫1・2丁目の高齢者世帯とし、民生委員・児童委員の協力を得て案内してもらいました。

令和5年10月にプレ実施を行いました。校区自治協議会をはじめとした地域団体関係者にも参加していたので、そこでアンケートを行って意見を集約し、翌月からの本格実施の参考にしました。

天真会の各施設長や施設の若い栄養士も積極的に参加し、施設ぐるみで取り組んでいます。

メニューも季節感ができるように工夫したり、元施設長が手品を披露したりなど、「おいしさ」と「楽しさ」を提供し、「また行こう」と思ってくれる場になるように心がけています。



東区第3地区民生委員・児童委員協議会

会長 堺 真利子さん

■施設と共に見守る

食を通じた居場所があることは、民生委員・児童委員としても地域の高齢者を見守る機会が増えて助かっています。

実施日の前日に施設から参加予定者に確認の電話を入れてもらい、連絡が取れない場合には施設から民生委員・児童委員に連絡をもらい、訪問して確認しています。また、このような形で高齢者に実際の施設を知ってもらうことは、将来の備えとしても効果が高いと感じます。

参加者の中には、子育てを卒業して疎遠になっていた人同士が数十年ぶりに会って懐かしむ様子が見られ、地域でのつながり再生のきっかけとなり、孤独・孤立を防ぐことに役立っています。

料理もおいしく、月1回の食事を楽しみに、施設まで杖をついて通っている姿を見て、民生委員・児童委員としても嬉しく感じます。



ご飯! しませんか

令和6年度
昼ご飯で交流とつながりづくり
天真会は、地域の高齢者が一緒に暮らさる食べ
お話し交流とつながりづくりの【パブリカ】を
行い、地域に根ざした施設を目指します。
どうぞお越しください。

■直営の地域交流センター

1主 席 社会福祉法人天真会
管理栄養士橘原 由美江さん
代表者橘原 由美江さん
サービス係栗原 美穂さん
天真会地域交流センター
東区三苫2-28-41
毎月第2・4・6日 12時～13時
休 日 4/10、5/8、6/12、7/10、8/14
9/11、10/9、11/3、12/11、
1/7、1/8、2/12、3/12
施設で調理したお弁当を提供
300円（消費税別）
6対象者
7申し込み先 天真会代表：橘原 由美江さん ☎606-2380 ■事前連絡を取り入れたお弁当
お申し込み先 天真会 代表：橘原 由美江さん ☎606-2380
福岡市社会福祉協議会東区事務所 ☎643-6922
福岡市社会福祉協議会地域支援課 ☎791-6339

■会場は、三苫1・2丁目の高齢者世帯です。

栄養バランスの良い
昼ごはんです

食を通してこころを 満たす居場所へと

ボランティア

公民館

児童福祉施設



あったかキッチンinこたべ

地域の概要

小田部校区は、西側に室見川の河畔公園が広がる閑静な住宅地で、都心方面への路線バスの便数も多いなど、交通の利便性と生活環境の良さから、子育て世代にも人気が高い。

また、「地域の子どもたちを自分たちの手で守ろう」との声かけで、「こたべだいこんの会」が発足し、全国で初めて、保護者と住民による青色パトロールカーでの巡回を開始した。校区主催のイベントと校区住民の集う場である「サンデーカフェ」を同日に開催する「こたべスマイルデー」や地域の介護事業所や企業等と連携して、介護講座や健康相談等を行う「こたべ福祉まつり」を開催している。

- 人口・世帯数：9,320人・3,844世帯
- 高齢化率：23.3%
- 年少人口率：16.6%（0歳～14歳）
- 単身高齢世帯率：11.5%（65歳以上）

運営団体の概要

- 団体名：あったかキッチンinこたべ
- 開始：令和6年6月
- 会場：早良区小田部6-6-10
小田部公民館
- 開催日：毎月第3土曜
11:30～なくなり次第終了
- 申込：当日受付制
- 参加費：子どもから高齢者まで
いずれも100円
（3歳未満は取り皿を提供）

連携している人々

- 小田部公民館
- 児童福祉施設
- 小・中学校PTA
- 校区自治協議会
- 校区社会福祉協議会
- 民生委員・児童委員 など

問い合わせ

- 早良区社協事務所
TEL 092-832-7383

活動のきっかけと内容

代表の河崎さんは主任児童委員として活動する中で子ども食堂に興味を持ち、校区自治協議会や公民館などの協力を得ながら、地域の仲間とともに財源やメニュー、運営方法などの協議を重ね、準備を進めてきました。小・中学校にも事前に話をして令和6年6月のプレ実施を経て7月から本格的に開催しました。

高齢者なども含め誰もが立ち寄れてほっとする居場所になるようにとの思いを込めて、『あったかキッチン』と名付けました。

活動の工夫

子どもも大人も一人100円（チケット制）としています。理由は、「食事」や食事の準備をしてくれるボランティアへの感謝の気持ちを表してもらうための「食育」の意図があるからです。

一人ひとりの食事の量に配慮して、ごはんの量は普通・少なめの2種類から選べるようにしています。そして配膳から片付けまで、参加者がセルフサービスで行います。

キャッチフレーズは、「食を通して子どもの心を満たす居場所づくり」です。これまで公民館を利用したことがない50代や60代の参加もあり、「ここで話し相手ができたと新たなつながりが生まれ、大切な居場所になっています。」



今後の展望

この取組みが長く続いていくように、また若い住民の活躍の場になってほしいとの思いから、従来の地域の役員で担うのではなく、初めて参加するボランティアのアイデアを積極的に取り入れています。

それらの意図を含め、もっとボランティアを増やすために広範囲から募りたいと考えています。さらに将来は、補助金に頼らずに参加費を中心に自立できることを目標として、続けていきたいと考えています。また、ボランティアや会場の都合で土曜日を開催日としていますが、曜日の変更も今後の課題として検討します。

福岡市の補助制度

補助金・助成金名	実施団体名	概 要	QR コード
ホームページURL			
子どもの食と居場所 づくり支援事業補助金	福岡市	福岡市が実施する、子ども食堂の活動経費の一部を補助する事業。申請窓口は、各区の区社協事務所（P30掲載）。	
https://www.city.fukuoka.lg.jp/kodomo-mirai/mimamori/child/kodomo-shokudou-list.html			

企業・公益団体等の補助制度

補助金・助成金名	実施団体名	概 要	QR コード
ホームページURL			
キリン・地域のちから 応援事業公募助成	公益財団法人 キリン福祉財団	子ども・子育て世代を元気にする居場所づくりなどの 活動を支援する助成事業	
https://foundation.kirinholdings.com/			
カゴメみらいやさい 財団助成金	一般財団法人 カゴメみらいやさい財団	子ども食堂をはじめとする居場所の継続・スタート アップを支援する助成事業	
https://kagome-miraiyasai.or.jp/			
キュービーみらいたまご 財団助成プログラム	公益財団法人キュービー みらいたまご財団	食を通した居場所づくりを行っている団体等を支 援する助成事業	
https://www.kmtzaidan.or.jp/			
こくみん共済 地域貢献助成	全国労働者共済生活協同 組合連合会（全労済）	子どもや親子の孤立を防ぎ、地域とのつながりを 生み出す活動等を支援する助成事業	
https://www.zenrosai.coop/zenrosai/csr/josei.html			
こどもの 未来応援基金	独立行政法人 福祉医療機構	貧困の状況にあるこどもたちの抱える困難やニ ーズに対して草の根で支援活動を行うNPO法人等 を支援する助成事業	
https://www.wam.go.jp/hp/cat/kodomomiraikikin/			
ニチレイMIRAI terrace財団 応援プロジェクト	一般財団法人 ニチレイMIRAIterrace 財団	子どもから高齢者まで食を通した居場所づくりに 取り組む団体等を支援する助成事業	
https://nichireimiraiterrace.or.jp/			

●食材等の確保について

「食を通じた居場所づくり」の活動を継続するうえで、食材の確保も大きな課題です。そのような中で、社会福祉協議会などの中間支援組織が企業や農業協同組合、奉仕団体などからの寄贈品（米・野菜・お菓子・保存食等）を仲介する取組みなどが行われています。

また、活動が地域などに浸透したことで、取組みに賛同する地域住民や地元の農家などから食材の提供を受けている居場所もありますので、地域に居場所があることを広く発信していくことも食材の確保につながります。

お役立ち情報

「食を通じた多世代交流ができる居場所をつくりたい」「どんなふうに始めたらいいかわからない」「居場所を継続するうえで課題があり、相談に乗ってほしい」というときには、社会福祉協議会（各区社協事務所・P30掲載）にご相談ください。

地域との関わり方やボランティアなどの人材、資金確保や衛生管理、開催場所などに関する相談に応じ、支援機関等のご紹介などを行っています。

※掲載している情報は、令和6年12月時点のものです。

●地域との関わりについて

食を通じた居場所づくり・多世代交流の多くは、歩いて会場に来ることができる近隣の地域の人々が主な対象になります。活動内容や目的などを周囲や地域に積極的にお知らせし、活動への理解や信頼を得ることにより、円滑な運営と参加者の安心につながります。

開設前に自治会・町内会、地域団体、民生委員・児童委員、幼稚園や保育園、学校などに事前に説明したり、周知の協力について相談することを通して、活動への理解が広がります。

なお、各区社協事務所（P30掲載）は、小学校区の社会福祉協議会や自治協議会、公民館などとのつながりを持っていますので、ぜひご相談ください。

●支える人について

活動を始めるにあたっては、一緒に支えてくれる仲間が必要です。当然、思いを一つにする仲間の存在は不可欠と言えるでしょう。活動を長年続けていくには、さらに多くの人に関わってもらえるような工夫が必要です。地域の中で協力者を見つけることもあるでしょうし、事例にもあるように大学などに相談して学生の支援をお願いしたり、ボランティアマッチングサイトを利用してウェブ上で募集することも選択肢の一つとして考えられます。

なお、各区社協事務所（P30掲載）にはボランティアセンターを併設しており、ボランティアの募集や活動希望者の紹介をしています。ぜひご利用ください。

●資金の確保について

「食を通じた居場所づくり」の活動を継続するためには、資金の確保は大きな課題です。参加費は、無料を含めて運営団体の方針や考え方で決まりますが、活動費用のすべてを賄うことは難しいため、補助金などを活用したり、寄付を募ることも効果的です。

ただし、これらは一時的なものであったり、補助金等は申請手続きや報告書の作成などに時間や手間がかかる場合もあり、自分たちの団体・活動内容にあった方法を探し、よく検討して取り組む必要があります。

一方で、活動の趣旨を広く発信し、クラウドファンディングで寄付を集めるなどの工夫は、周囲に活動への理解を促す効果もあります。

（補助金・助成金）

次に紹介している代表的な補助制度や事業は、大半が子どもの利用を前提とする「子ども食堂」を対象としているものですが、子ども以外の世代の利用を制限しているものは少なく、対象条件や募集時期などをよく確認し、活用できるものを検討してみてください。

思いを話すことをきっかけに 地域の仲間たちと共感の輪を原動力に



インタビュー

あったかキッチンinこたべ

かわさきな お保さん
代表 河崎 奈保さん

■14年間子どもたちと関わって

私が、小田部校区に移り住んで14年が経ちます。その間子ども会に始まり、中学校のPTA役員や学年委員などの学校関係の関わりや絵本の読み聞かせ、ボーイスカウトなどの活動に携わってきましたが、子どもを取り巻く環境が大きく変化していくことを実感し、考えさせられることが多くありました。

かつてお母さんが働いていてもパートタイマーが多く、子育てに時間的余裕があったように感じますが、最近は共働きが増えて一緒に食事をしたり、過ごす時間が少なくなっている傾向にあります。以前は「子ども食堂＝経済的に困っている子どもたち」のイメージで捉えられていましたが、多くの子どもたちにとって家以外の居場所の必要性が高まっていることを感じていました。



■住民にできることは

子ども食堂の事例発表に興味を持ち、早良区社会福祉協議会主催の「子どもに関わるボランティア養成講座」に参加すると、小田部校区の方も参加されており、同じ思いを持った方が身近にいることを力強く感じました。

他校区の子ども食堂や多世代を対象とした“地域食堂”も見学してもらいました。子どもから高齢者まで



のつながりがあって素晴らしいと感じ、「こころを育てる」という思いを持つ“地域食堂”に共感した一方で、実際に自分たちで立ち上げるのはハードルが高いと感じました。

■自分の思いを伝える

知り合いから校区自治協議会に相談してはどうかと言われたものの、すぐにはできませんでした。ただ、校区自治協議会の松永会長が以前に障がい児等のサポートをされていたことを思い出し、松永会長に思いを伝え

たところ、「手を上げてくれる人を待っていた。応援するよ」と温かい言葉をいただきました。

会場は、参加者の親が安心できる公共の施設が良いと考えていました。公民館長に相談すると、応援すると後押しをいただきました。続いて自治会長の会合でも思いを伝え、実現に向けて準備がスタートしました。振り返ると自分の思いや考えていることを地域の人々に伝えることにより実現への可能性が広がったと感じています。

■協力の輪が広がって

開催日は、公民館の空きがあった第3土曜日とし、メニューは定番のカレーライスとしました。

スタッフには、校区自治協議会などの地域団体に所属している人もいますが、決して割当での参加ではなく、自発的な気持ちで関わってもらっています。また「公民館だより」を見て参加してくれた方々もあり、多彩な人材が集まっているので、活動しながら改善点などの意見を出し合って進めています。



■地域の児童福祉施設との連携

校区内にある児童福祉施設の利用者にも周知のお願いに伺ったところ、施設としても「何か地域貢献ができないか」と考えていたそうで、施設職員が調理ボランティアとして参加してくださっています。施設利用者の参加とともにフードパントリー（食糧支援）を会場内で併せて開始しました。このような連携は、施設の存在を地域の方々に知ってもらうことにつながっています。

児童福祉施設との連携がとれたことから、その専門性を発揮して悩みを抱えた方の相談を受ける取組みについても検討しています。

福祉施設・大学・公民館と 共に創る居場所づくり

大学

公民館

高齢者
福祉施設

早良区
田村校区

かふえ もりのいえ

地域の概要

田村校区は早良区の中南部に位置し、西側を室見川が流れる平坦な住宅地で、戸建て住宅や低層・中層の集合住宅が広がる中、田村団地など大型の公営住宅も立地している。

公民館では子育てサロンやサークルなどの子育て支援事業が行われ、秋の「にこにこランドたむらミニ運動会」は乳幼児親子で賑わう。

また、校区内には福岡歯科大学、福岡看護大学が立地し、学生が夏祭りや運動会等の校区行事に参加するなど、大学と地域との連携が生まれている。

- 人口・世帯数：10,704人・5,088世帯
- 高齢化率：23.1%
- 年少人口率：16.4%（0歳～14歳）
- 単身高齢世帯率：10.2%（65歳以上）

運営団体の概要

- 団体名：社会福祉法人 学而会
- 開始：令和7年1月
- 会場：早良区田村3-247-22
田村公民館
- 開催日：毎月第3日曜
10:00～14:00
- 申込：事前申込制
- 参加費：子ども無料
大人1000円（保険料含む）

連携している人々

- 校区自治協議会
- 公民館
- 学校法人
- 社会福祉法人 など

問い合わせ

- 早良区社協事務所
TEL 092-832-7383

活動のきっかけと内容

コロナ禍前は毎月、公民館と介護老人福祉施設サンシャインプラザで交互に『かふえ もりのいえ』が開かれ、地域の高齢者だけではなく、小学生も多く参加して交流が図られていました。コロナ禍で中断したり、公民館が移転して環境が変わり、現在は地域の高齢者中心の地域カフェとなっていました。

福岡歯科大学と福岡看護大学、福岡医療短期大学の三大学で構成する“地域連携センター”が、子どもたちの参加を実現したいと考えていた矢先、公民館の主事も子ども食堂を開催したいと考えていたことがわかり、打合せをすることになって、一気に開催への機運が高まりました。

活動の工夫



令和7年1月の『かふえ もりのいえ』の開催日に、子どもたちを加えて、一緒に食事をするプレ実施が決まり、早良区のいくつかの地域食堂を見学しながら準備を進めました。プレ実施の2か月前には、ボランティア

アや福祉施設などと協議を進めて、メニューはカレーライスとし、小学校にも呼びかけて子どもたちの参加を募ることにしました。

食材は、公民館の屋上菜園で育てた野菜を活用したり、住民からお米の寄付が見込まれるなど、着々と準備が進みました。

今後の展望

令和6年度は試行的に開催しますが、令和7年度からは本格的に月1回の地域食堂を実施していきます。地域（公民館・校区自治協議会など）と大学等の教育機関・高齢者福祉施設の三者がタッグを組んで行うこの“地域食堂”が、地域交流のモデルの形として、波及していくことを目指しています。

美術館における 先駆的な取り組み

大学

事業所
ネットワーク

公民館

東区
香住丘・香椎下原
香椎・香椎東

九州産業大学美術館

九州産業大学美術館の先駆的取り組み

九州産業大学内にある美術館では、「大学における文化芸術推進事業」の取り組みを重ねる中で、令和4年度からは“社会的処方”の考え方をベースに「高齢者をつなぐ美術館と医療・福祉施設、行政機関、公民館、他の博物館との連携事業」に着手しました。

イギリスの医療現場では、社会的孤立を原因とした生きづらさを解消するカギとして1980年頃に“社会的処方”という考え方が誕生しました。社会的処方は、孤立状態にある人を地域の活動や文化サークルといった自分を表現できる場につなげることで自律的な生活を支援し、孤独や孤立によってもたされる病を予防・解消する仕組みです。つまり、薬ではなくつながりや居場所を処方することによって孤立を解消していくという考え方です。

九州産業大学美術館では、このような考え方にに基づき、美術館のある東区周辺地域の「介護・福祉・医療事業所ネットワーク」と連携しながら地域の高齢化問題に取り組み始めています。具体的には「認知症患者とその介護者を対象とした鑑賞プログラムの開発と実践」「美術館と公民館を結ぶオンライン鑑賞会」「高齢者を主な対象者とした多様な博物館体験の機会を創出するアートバスツアー、ワークショップ開催」などの事業を展開するとともに、「高齢者の健康を目的とした美術館と施設を結ぶオンラインプログラムを考える」研究会の開催などで知見を重ねてきました。

学食を活用した交流

令和6年度には、「和紙燭づくりアートバス事業」において学食で軽食を提供して交流する取り組みを試行的に実施しました。

公民館などで呼びかけて集まった地域の人々は、ワークショップでの和紙燭づくりを体験しました。その後の学食での昼食では、会話が弾み、交流の効果も増したように感じました。まだ試行の段階ですが「社会的処方」の実践に「食」を取り入れることの可能性を感じた取組みとなりました。



地域の概要

香住丘校区は、西側は博多湾の最奥部にある和白干潟に面し、東側は歴史に登場する立花山があり、海と山の間に緑豊かな良好な住宅地が広がっている。校区内には、福岡女子大学、九州産業大学、香住丘高等学校があり、東区の文教地区の一つである。

香椎下原校区は、立花山・三日月山の麓に位置する自然に恵まれた校区。立花城跡や長谷ダムなどは、市民が自然にふれあえる場、いこいの場として親しまれている。

香椎校区は、福岡市の都心部から北東約8kmに位置し、JR香椎駅と西鉄香椎駅の2つの鉄道駅があり、交通の利便性に恵まれ、駅を中心に約600店舗が集積する商業地区となっている。

香椎東校区は、昭和50年代から大規模住宅地の開発が進み、人口が増加し、昭和53年に香椎校区より分離して誕生した校区。住宅地の背後には三日月山に続く山林が広がっており、緑豊かで閑静な住宅地となっている。

	人口	世帯数	高齢化率(%)	年少者率(%)
香住丘	18,488	9,985	22.3	12.5
香椎下原	14,586	7,500	22.3	14.9
香椎	12,739	7,089	21.8	11.5
香椎東	13,544	6,305	26.4	13.1

連携している人々

- 事業所ネットワーク
- 各公民館
- UR など

問い合わせ

- 東区社協事務所
TEL 092-643-8922

ふくふく子ども食堂

きっかけは

代表の佐志さんは、長年里親をしたり、ファミリーホームを運営するなど、子どもの福祉に関わっています。「むすびえ」の湯浅 誠さんの講演を聞き、子ども食堂の必要性を痛感し、地域へ広がっていくことを願い、令和元年に「ふくふく子ども食堂」を立ち上げました。

世代を超えて

毎回、「公民館だより」で開催日

基本情報

- 団体名：ふくふく子ども食堂
- 開始：令和元年9月
- 会場：東区松崎3-32-1
天理教本千嘉分教会
- 開催日：毎月第3土曜 11:30~14:00
- 申込：事前申込制
- 参加費：子ども100円
大人300円

などを広報してもらい、幼児から高齢者まで30名弱が一堂に集まります。参加者は3つの座卓に分かれて座り、佐志さんの「いただきます」の声かけで食事が始まるなど、家庭的な雰囲気が漂う子ども食堂となっています。

子どもたちには、「お手伝いカード」を配り、食堂に来るたびにスタンプを押し、子どもたちのモチベーションを高めています。

料理は最高87歳のボランティアが毎回かさず手伝い、参加者と交わって食事をしています。

地域概況

- 人口・世帯数：16,611人・7,852世帯
- 高齢化率：22.7%
- 年少人口率：15.5%（0歳~14歳）
- 単身高齢世帯率：10.0%（65歳以上）
- 問合せ先：東区社協事務所
TEL 092-643-8922

地域への認知を

小・中学校の校長や教師が訪れ、ご近所の方から野菜や果物などをいただくなど、子ども食堂の存在は、地域にも根づいてきています。



子ども食堂 ジョイプレイス福岡

きっかけは

代表がこの居場所づくりを始めたきっかけは、娘さんからの「友達を助けてあげられない?」の一言でした。その友人はヤングケアラーで、家



事や家族のケアのために「子どもとしての時間」が失われていることを悩んでいました。

自分にできるサポートは何かと考え、さまざまな立場の人に相談する中で学校や家庭以外の居場所を作る必要性を感じて取り組み始めました。

安心を醸成する

令和4年に試行的に開くことにして町内会長にお願いし、町内掲示板にチラシを貼り出してもらいました。

途中からInstagramで写真を載

せて告知をすると開催中の様子がかつて安心するのか、徐々に参加する人が増えました。今では、定員（60食）を超えることもあり、タイム制（入替制）にするなどの工夫も考えています。

理念を掲げて

「たすけあえる文化を残そう」を理念とし、単なる食事の提供の場とは考えず、食事とともに会話が生まれたり、食事以外にもカフェスペースや遊び場を設けて、大学生ボランティアらが遊び相手となる等、笑顔で過ごしていただくための工夫をしています。多世代との交流を通して参加者が気軽にコミュニケーションを図れる雰囲気を大事にしています。

高齢者の参加は多くはないものの交流を通じて高齢者の経験を聞く機会があることが、子どもたちにとって大きな力になると期待しています。

基本情報

- 団体名：ジョイプレイス福岡
- 開始：令和6年1月
- 会場：西区小戸4-4-5
天理教福岡分教会
- 開催日：毎月第2又は3日曜 12:00~15:00
- 申込：事前申込制
- 参加費：6才まで無料 中学生まで100円
高校生以上200円

地域概況

- 人口・世帯数：15,822人・8,238世帯
- 高齢化率：18.7%
- 年少人口率：14.9%（0歳~14歳）
- 単身高齢世帯率：8.2%（65歳以上）
- 問合せ先：西区社協事務所
TEL 092-895-3110

福祉施設・大学・地域の思いが結びついて



インタビュー

田村公民館

主事 杉本 聖代さん

■地域の課題に向き合って



校区の民生委員・児童委員として活動する中、小学校で「朝食などを取っていない児童がいる」との話を聞きました。そういう子どもたちに食事を提供できる機会を設けたいとの思いから、公民館主事に応募、令和6年度から主事に就任しました。

今回「かふえ もりのいえ」の拡大実施に結びついたのは、地域にある大学と高齢者福祉施設であるサンシャインプラザで「かふえ もりのいえ」を続けていたことが大きいと考えます。加えて地域の課題に向き合うそれぞれの思いが、絶好のタイミングで結びついたことが幸運でした。



■地域でもアイデアを出し合って

地域食堂のプレ実施が決まってからは、調理ボランティアを募り、参加利用者の人数を把握するために、事前申込制で開催することにし、公民館を申込窓口とし



校区自治協議会会長のアイデアで、食材は公民館の屋上菜園の野菜を利用することや近隣の農家の方々の協力をいただくことができました。地域と大学と福祉施設の三位一体の取り組みが、大きく花開くことは、これからの地域にとって心強いことだと思っています。

学校法人福岡学園地域連携センター

副センター長 古野 みはるさん

■以前の交流の姿を

福岡歯科大学など三大学を運営する学校法人福岡学園の学生が地域の方とふれあうことは貴重な体験になるという思いと系列の社会福祉法人学会の地域貢献への思いから、地域の関係団体等と協議して「かふえ もりのいえ」を平成27年に立ち上げて毎月1回開催していました。



コロナ禍の中断により、それまで参加していた子どもたちの参加が減少しました。以前のような交流の様子を再現したいと考えていたところ、「食を通じた居場所づくり・多世代交流モデル事業」の説明を聞き、ぜひ取り組みたい考えるようになりました。

■地域との思いがつながって

そんな時に田村校区自治協議会の兼田会長と話す機会があり、「『かふえ もりのいえ』で食事を提供して、多世代の交流の場にしたい」と話したところ、「公民館主事も子ども食堂をしたいようだ」との情報をいただき、公民館と話し合いの場を持ち、実施に向けて協議を重ねました。

引き続き大学生の参加も促して、子どもたちが喜ぶような脳トレやクラフトづくりを取り入れ、高齢者などとも交流を図っていければ良いと考えています。



地域の福祉事業所としての 孤独・孤立防止の取組み

企業

高齢者
福祉
事業所

早良区
賀茂校区

紺然想

地域の概要

賀茂校区は早良区のほぼ中央に位置し、戸建てや中・低層の集合住宅が多い住宅地で、URの大型団地「星の原団地」も立地している。地勢は平坦で、校区の南側に平成外環状通り、その上を福岡都市高速道路環状線がはしり、地下鉄七隈線賀茂駅も所在する交通至便な地である。

毎年9月15日には、千年以上前から伝わる賀茂神社の「千灯明」が行われ、境内が幻想的な雰囲気包まれる。また、同神社は古くからナマズの神様として親しまれており、これに因んで、交通安全や防犯活動に取り組む「なまずの会」が結成され、子どもたちの安全・安心に大きく貢献している。

- 人口・世帯数：10,147人・5,124世帯
- 高齢化率：26.8%
- 年少人口率：14.4%（0歳～14歳）
- 単身高齢世帯率：15.4%（65歳以上）

運営団体の概要

- 団体名：株式会社紺然想
 - 開始：令和7年1月
 - 会場：早良区賀茂2-9-9
デイサービス紺然想
 - 開催日：毎月第3木曜
18:00～19:30
 - 申込：当日受付制
 - 参加料：無料
- ※寄付は受け付けます。

連携している人々

- ふれあいネットワーク
- 民生委員・児童委員

問い合わせ

- 早良区社協事務所
TEL 092-832-7383

活動のきっかけと内容

代表の河村さんは民生委員・児童委員の活動や「ふれあいネットワーク（※）」の活動をする中で、地域にひとり暮らしの高齢者が外国籍の高齢者も含めて増えていくことを感じ、孤独や孤立の課題を強く考えるようになりました。

経営する地域密着型デイサービスで、日曜日を除き、毎日13時から16時半まで子どもたちに向けた駄菓子屋の販売をしており、子どもたちと高齢者のふれあう姿を見るたびに、事業所を活用して「地域食堂」を立ち上げたいと考えていました。



活動の工夫

まずは、小さく始めて軌道に乗せたいと考え、近隣のひとり暮らし高齢者に声をかけ、駄菓子屋や夏祭りなどに来る子どもたちに声をかけ、多世代交流を図りました。



事業所の職員にできる限り負担がかからないように配慮しながらも、小規模事業所の強みを活かした顔の見える形で、かつ、温かい食事を提供できるようにし、事業所で提供しているメニューを参考に試行的に始めることにしました。

今後の展望

軌道に乗れば、校区内のひとり暮らしの高齢者にも広く声をかけていきます。また、試行開催時に挙がった意見なども取り入れながら、事業所の地域貢献として続けていくことを目指していきます。

※ふれあいネットワーク

地域住民（ボランティア）や地域団体、関係機関が連携し、支援を必要とする高齢者や障がい者・子育て家庭などを対象に、見守りや声かけ、定期訪問などを行い、支え合う活動。

みんなかふえ・あたご

きっかけは

校区内で活動休止していた「かふえ・あたご」を多世代交流の居場所として再開したいという声上がり、「みんなかふえ・あたご」として再開しました。

子どもたちには料理や配膳・下膳を手伝ってもらったり、高齢者には子どもたちがチョコペンで顔を描いたデザートを提供するなど、心がほっこりするようなしかけをしています。写真は「うどん屋さん」メニュー。トッ

ピングを自分で選んでそれぞれの「お好みうどん」を一緒に食べました。



共に楽しいひととき

食事の提供だけでなく、絵本の読み聞かせやピアノの生演奏を企画して、子どもから大人まで楽しめるように工夫しています。子育てと介護の専門職がスタッフとして参加することもあり、子育て世代のお悩みや介護サービス利用等、大人の参加者が気軽に話がができるようにしています。

継続への思いを込めて

始まったばかりの『みんなかふえ・あたご』。子どもから高齢者までの三世代をつなぐ多世代交流の居場所として、細くても長く続く活動にしていきたいと思っています。

基本情報

- 団体名：みんなかふえ・あたご
- 開始：令和6年5月
- 会場：西区愛宕4-11-11
愛宕公民館
- 開催日：毎月第4土曜 11:00～14:00
- 申込：当日受付制
- 参加費：子ども無料
大人200円

地域概況

- 人口・世帯数：12,512人・6,367世帯
- 高齢化率：23.2%
- 年少人口率：11.9%（0歳～14歳）
- 単身高齢世帯率：9.6%（65歳以上）
- 問合せ先：西区社協事務所
TEL 092-895-3110

いただきます（つるたパラデロ）

名称に込めた思いは

「僕自身がまだ“ガキ大将”でいたい」という代表の思いから子どもの



居場所を設けるためにNPO法人を立ち上げました。コロナ禍以降あまり利用されていなかった集会所で『つるたパラデロ』を開催しています。「パラデロ」はスペイン語で“居場所”という意味で、みんなの居場所との思いを込めています。

集会所は調理設備が整っているので、家でも簡単に作れるようなメニューを子どもたちと一緒に調理しています。

交流の広がり

子ども中心の活動ではありませんが、



対象年齢に制限はありません。代表が経営する理髪店の常連客やランドゴルフ帰り的高齢者が「つるたパラデロ」に遊びに来て、子どもたちと一緒に食事をしたり、「何か手伝うよ」と声をかけてくれることもあります。

子どもから高齢者までテーブルを囲んで和やかな時間を過ごせる『つるたパラデロ』。これからもいろんなしかけをしながら活動を盛り上げていきます。

基本情報

- 団体名：NPO法人いただきます
- 開始：令和5年4月
- 会場：南区鶴田3-2-22
鶴田集会所
- 開催日：毎月第1・3日曜 11:00～18:00
第2・4日曜 14:00～19:00
月曜祝日は、11:00～18:00
※終了は時季により学校等門限まで
- 申込：当日受付制
- 参加費：子ども（中学生まで）100円・
大人300円

地域概況

- 人口・世帯数：7,231人・3,237世帯
- 高齢化率：32.1%
- 年少人口率：14.9%（0歳～14歳）
- 単身高齢世帯率：12.5%（65歳以上）
- 問合せ先：南区社協事務所
TEL 092-554-1039

飯倉こころ保育園こころ食堂

きっかけは

経営している小規模保育園では、0歳～3歳までしか預かれず、その後の様子を知る機会がなかったため、卒園後の子どもたちが立ち寄れる場を作れないかと考え、立ち上げました。

ボランティアには、他園から保育士などの専門性を持った方などが関わっています。

高齢者も受け入れて

途中から人数限定で高齢者も受け



入れるようになりました。バス通りに面する壁に子ども食堂の告知を掲示しているので、遠方からバスで通ってくる人もいます。

高齢の参加者の様子に違和感があったので、いきいきセンターなど



へ連絡したところ、介護認定を受け介護保険サービスを受けられるようになり、喜ばれています。

子ども食堂を開くようになって、近隣の大学の学生が見学に来たり、将来子どもや栄養に関わる仕事を目指す人々とのつながりが広がっています。

将来の展望

今は会場が狭く、保育園が休みの日しか開催できないので、将来的には民家などで平日の夕方に関わりたいと考えています。



基本情報

- 団体名：株式会社ワンハート
- 開 始：令和5年5月
- 会 場：早良区飯倉6-24-16
飯倉こころ保育園
- 開催日：毎月第1・3日曜 11:30～15:30
- 申 込：当日受付制
- 参加費：子ども・高齢者無料・大人200円

地域概況

- 人口・世帯数：9,793人・4,780世帯
- 高齢化率：30.0%
- 年少人口率：14.0% (0歳～14歳)
- 単身高齢世帯率：15.9% (65歳以上)
- 問合せ先：早良区社協事務所
TEL 092-832-7383

笹丘ふれあい食堂

きっかけは

もともと、校区社会福祉協議会が地域のカレー屋とタイアップして小学生から高齢者まで集う「ふれあい食堂」を開催していました。



しかし、コロナ禍による飲食店の閉店に伴って、開催することができなくなりました。小学生や高齢者がふれあう機会が失われていたため、その機会を再び取り戻したいと、令和5年4月から公民館で再開することにしました。

子どもの喜ぶ姿を

メニューは、子どもたちが喜びそうなパンダなどのキャラクターカレーを提供しています。

食事ができるまでは、別室で地域

の元教師の高齢者や九大生が宿題を見て勉強を教えたり、絵本を読んだり、子どもたち同士で遊んだり、自由な時間を過ごしています。

高齢者は、食事提供の時間をめどに食事会場に集まって、参加者やスタッフと雑談しながら待っています。

調理は地域のボランティアをお願いし、公民館長もボランティアとして参加し、交流に役買っています。



基本情報

- 団体名：笹丘校区社会福祉協議会
- 開 始：令和5年4月
- 会 場：中央区笹丘1-13-41
笹丘公民館
- 開催日：毎月第2・4水曜 16:00～18:00
- 申 込：当日受付制
- 参加費：子ども・大人いずれも無料

地域概況

- 人口・世帯数：13,037人・6,618世帯
- 高齢化率：26.9%
- 年少人口率：13.2% (0歳～14歳)
- 単身高齢世帯率：13.3% (65歳以上)
- 問合せ先：中央区社協事務所
TEL 092-737-6280

福祉事業所として地域の見守りに参加し交流の大切さを実感



インタビュー

株式会社紺然想

代表 河村 智弘さん

■地域密着型事業所を立ち上げて



私は、平成29年に賀茂校区の大敷地区に民家を利用した地域密着型デイサービス「紺然想」を立ち上げました。地域密着型の福祉事業所では、より地域との連携や透明性を確保する狙いから、地域住民や利用者家族、近隣の介護福祉事業所、行政の方々をメンバーとする運営推進会議を半年に一度開催することが義務付けられています。

地域との関わりが深まる中、令和元年に賀茂校区の民生委員・児童委員も拝命し、加えて校区社協のふれあいネットワークの大敷班代表もさせていただくことになりました。しかし、新型コロナウイルスの蔓延で思うように活動ができない状況が続きました。

■地域の課題を目の当たりにして

民生委員・児童委員やふれあいネットワークの活動が、

コロナの終息とともに徐々に再開しましたが、高齢化が進み、中でも単身高齢者世帯の増加は、強く感じるところとなりました。外国籍の高齢者も在住していると把握し、孤独・孤立の課題は、避けて通れない課題だと実感しています。

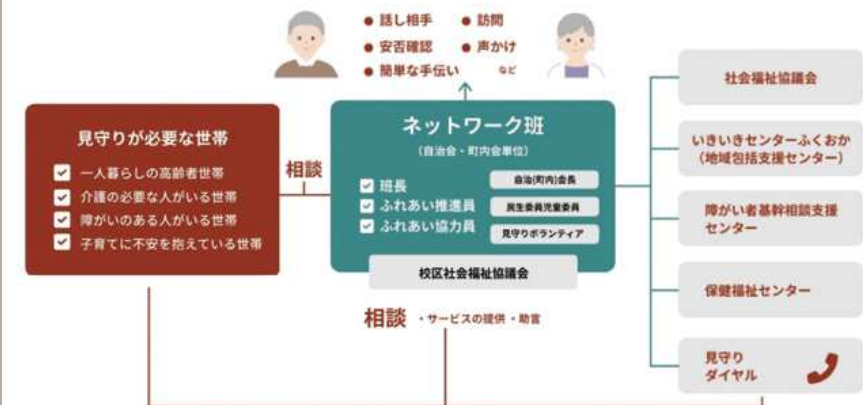
また、地域の中の介護事業所や介護に関心が薄い子どもや保護者に事業所を知ってもらうために、令和元年から事業所内で駄菓子屋を開くようになりました。高齢者と子どもの交流も好評です。コロナ禍で一時期中断していましたが、再開後は平日の学校終わりや、学校が休みの日には昼から多くの子どもや保護者が訪れています。



■交流の輪を広げて

地域のひとり暮らし高齢者と子どもたちと月1回、夕方の時間に、食事を通じて交流ができるようにしたいと思い立ち、まずは令和7年1月に試行をはじめ、小さく始めて交流の輪が広がっていくことを願っています。

ふれあいネットワークのしくみ



福祉相談のボランティアが 若者に寄り添う居場所

専門職
空き家



▲ホームページは
こちら

こころふくよか食堂

地域の概要

高取校区は、地下鉄新駅と藤崎駅の間にあり、中西商店街、高取商店街、藤崎商店街など商業施設が多く集まり、都心部との交通利便性の高い住宅地。

特徴的な校区の活動として、福岡で暮らす外国人との交流・支援活動を行う「国際交流推進委員会」、ラジオ体操や青バト活動など子どもの健全や地域のために活動する「げんこじゅく（ガンコおやじと元寇に由来）」、高齢者等の見守りのため地域の協力商店や事業所などが対応する「シルバー110番」、住民相互の融和に活用する「絆カフェ」などがあり、地域の実情に応じた多彩な活動に取り組んでいる。

- 人口・世帯数：17,539人・8,897世帯
- 高齢化率：17.1%
- 年少人口率：14.7%（0歳～14歳）
- 単身高齢世帯率：8.0%（65歳以上）

運営団体の概要

- 団体名：こころふくよか
- 開始：平成28年1月
- 会場：早良区西新5-14-11
こころふくよかアトリエ
- 開催日：毎月第2土曜17:30～
毎月第4日曜12:00～
- 参加料：子ども・生活困窮者無料
大人300円

連携している人々

- 行政機関
- NPO法人
- 民生委員・児童委員
- 公民館 など

問い合わせ

- 早良区社協事務所
TEL 092-832-7383

活動のきっかけと内容

代表の田中さんは、不登校やひきこもりの相談に対応する中で居場所の必要性を感じていました。空き家提供の話きっかけに、



ひきこもりの家族や支援者が中心となって、若者を含めたさまざまな世代が集う居場所づくりを実現するために、平成28年「こころふくよか」を立ち上げ、食事を提供し始めました。

活動の工夫

ボランティアの大半は、福祉分野等での対面での相談支援などの経験があり、「こころふくよか食堂」での会食の際や別日に開催し、相談を受けたりする「こころふくよかカフェ」などで、利用者の悩みに寄り添うことを心がけています。また、民家が会場なので家庭的な雰囲気の中で食事が提供されることや、個室や卓球ができるスペースがあり、「自分らしく居られる場所」があることが、利用者の安心感にもつながっています。

季節ごとのメニューを提供する中で、食事づくりに興味を持ち、調理を手伝ってくれる若者も現れるなど、食事を通じたコミュニケーションや自立に向け一歩を踏み出すきっかけにもなっています。コロナ禍に会食から弁当配付に切り替えたところ、さらに多くの方々への支援に広がり、会食を再開したあとも弁当配付を継続しています。

今後の展望

事業を継続するうえで資金の確保とともに、若者のボランティアを増やしていくことが、自立や寄り添う支援の今後の重要なポイントになると考えています。



みらいあんこども食堂（吉塚）

きっかけは

「NPO法人福岡終活・相続支援センターみらいあん」は終活等の高齢者への相談や居住支援法人として住宅確保要配慮者への住居の相談などを受けています。その中で地域づくりやさまざまな人との交流の必要性和子どもの貧困の現状を踏まえ、子ども食堂の開催を思い立ちました。

会場を探す中で吉塚商店街のフリースペースを借りることができ、開催につながりました。商店街での開催をきっかけに食材の提供の支援などにもつながっています。

さまざまな工夫で

開催日を第3土曜日と固定し、その都度周知しなくても分かる工夫をしています。また、キャラクターショーなどとコラボし、子どもたちが興味を持つようにしています。さらに「みらいあんSOSカード」に困った時の相談電話とともに各SNSのQRコードを掲載して配付しています。カードの裏面にスタンプ欄を設けたことでリーダーにつながっています。

基本情報

- 団体名：NPO福岡終活・相続支援センターみらいあん
- 開始：令和5年10月
- 会場：博多区吉塚1-14-15
吉塚トリプルアジアマーケット
- 開催日：毎月第3土曜 11:00～14:00
- 申込：当日受付制
- 参加費：子ども、後期高齢者無料
大人任意寄付

地域概況

- 人口・世帯数：10,917人・6,672世帯
- 高齢化率：16.4%
- 年少人口率：10.9%（0歳～14歳）
- 単身高齢世帯率：7.8%（65歳以上）
- 問合せ先：博多区社協事務所
TEL 092-436-3651

将来の展望

将来的には小学校で開催したいの思いとともに、市内7区すべてで開催したいと考えています。現在、会員の協力のもと、令和6年度から南区と早良区でも同じく第3土曜に開催しています。



原四つ角こころ子ども食堂

きっかけは

代表の稲員さんは、大学院で「子ども精神的幸福度」の研究をする中で子ども食堂をやってみたいの思いが大きくなり、空き室になった親族のマンションを会場に子ども食堂を始めました。

参加する子どもから「大人も無料ですか」と尋ねられ、理由を聞くと「無料なら母親と一緒に来られるから」との答えが返ってきたことを受けて、子どもも大人も参加費は無料にしています。

体験格差の解消に

その後マンションの子ども食堂を閉鎖することになったため、今は事業所で開催しています。この子ども食堂では、子どもの体験格差を無くすことも目的の一つとして季節を感じる体験を取り入れています。多いときは60名を超える親子や祖父母が一緒に参加するなど、会場一杯に笑顔が溢れています。

基本情報

- 団体名：一社こころこばアカデミー
- 開始：令和6年5月
- 会場：早良区原5-1-3
こころこばアカデミー
- 開催日：毎月第2・4金曜 15:00～18:00
- 申込：当日受付制
- 参加費：子ども無料・同伴の大人無料

地域概況

- 人口・世帯数：11,611人・5,409世帯
- 高齢化率：24.0%
- 年少人口率：16.0%（0歳～14歳）
- 単身高齢世帯率：13.8%（65歳以上）
- 問合せ先：早良区社協事務所
TEL 092-832-7383

地域とのつながり

校区社会福祉協議会で活動紹介をする機会を得たり、TVの取材を受けてその反応があるなど、徐々に地域の理解が進んでいることを実感しています。



企業理念として食を通じて 介護職の魅力を発信

企業
高齢者
福祉施設



▲①福岡別府はこちら



▲②S 姪浜はこちら

SOMPO 流子ども食堂

地域の概要

鳥飼校区は、東と北に樋井川、西に七隈川、南に旧筑肥線が通っていた城南区役所南側の道路に囲まれた周囲約3キロメートルの地域。中央区六本松や早良区西新の商業地域に近く、また、公共交通機関による都心への交通利便性が高いこともあり、会社の社宅が多く、人口移動が激しい住宅地である。

- 人口・世帯数：10,503人・5,092世帯
- 高齢化率：20.5%
- 年少人口率：14.0%（0歳～14歳）
- 単身高齢世帯率：10.5%（65歳以上）

石丸校区は、中央に名柄川、西側に十郎川と2つの河川が南北に流れ、校区全体が平坦な地形。戸建住宅が多い地域だが、大町団地や石丸団地、十郎川団地の大型団地もあり、近年は住宅街の中にもマンションが増えている。校区内には、東側に姪浜大通り、中央に外環状道路、南側に国道202号線と幹線道路が走っており、それぞれの道路は歩道が整備され、街路樹の植栽もあり、ゆっくり歩くことができるようになっている。

- 人口・世帯数：10,937人・5,104世帯
- 高齢化率：28.9%
- 年少人口率：12.7%（0歳～14歳）
- 単身高齢世帯率：11.9%（65歳以上）

運営団体の概要

- 団体名：SOMPOケア株式会社
- ①開始：令和6年6月
- ・会場：城南区鳥飼6-18-31
ラヴィーレレジデンス福岡別府
- ・開催日：毎月第2土曜11:30～15:00
- ・申込：事前申込制
- ・参加費：子ども無料・大人300円
- ②開始：令和5年4月
- ・会場：西区石丸3-38-7
そんばの家S姪浜
- ・開催日：毎月第3土曜11:30～16:00
- ・申込：事前申込制
- ・参加費：子ども無料・大人300円

問い合わせ

①城南区社協事務所
TEL 092-832-6427

②西区社協事務所
TEL 092-895-3110

活動のきっかけと内容

有料老人ホーム等を運営しているSOMPOケア株式会社では、社員の働きがい向上を目指した社内プロジェクトとして、『SOMPO流子ども食堂』を開催しています。市内では、鳥飼校区と石丸校区の2か所の有料老人ホームで開催しています。



多世代交流を促すことで高齢者の活力向上、子どもたちと高齢者とのふれあいの機会提供、さらに介護職の魅力を知ってもらうことで、人材確保や社員の働きがいの向上にもつながっています。

活動の工夫

子どもたちが配膳や下膳、消毒等を社員と一緒に体験を通じて介護の仕事への理解を深め、多世代交流によって高齢者や子どもなど参加者の笑顔につながり、社員も子どもたちの介護職体験によって仕事への誇りにつながっています。

交流のきっかけとして、ベランダで高齢者と子どもと一緒にジャガイモを育てており、食材確保と交流という二刀流の効果をねらっています。



今後の展望

地域との連携は、これから進めていきますが、鳥飼校区では定員を超える申込みがあり、定着しつつあります。先日施設内のフリースポットを利用して宿題をしている小学生が、算数を教えてくれる高齢者にお土産を持ってくるなどの交流が見られました。

ボランティアと大学生と 商業施設のコラボ

ボラン
ティア
コミュニ
ティス
ペース

大学生



▲Instagramはこちら

みんな食Minna

地域の概要

香椎下原校区は、立花山・三日月山の麓に位置する自然に恵まれた校区。校区の北境は新宮町、東境は久山町に隣接しており、校区内には国道3号及び県道町川原福岡線が東西に走っている。

九州産業大学が校区の隣接地に立地していることもあり、単身世帯の割合が高いことも校区の特徴である。

地域では、「長谷ダム水がめまつり」や「しもばる音楽会」の開催など積極的にまちづくり活動が行われている。

- 人口・世帯数：14,586人・7,500世帯
- 高齢化率：22.3%
- 年少人口率：14.9%（0歳～14歳）
- 単身高齢世帯率：7.5%（65歳以上）

運営団体の概要

- 団体名：みんな食Minna
- 開始：令和4年4月
- 会場：東区下原4-2-1
ランチ福岡下原2階
コミュニティスペース
- 開催日：毎月第1・3金曜
16:30～19:00
毎月第2・4金曜
フードパントリー
- 申込：当日受付制
- 参加料：子ども無料
大人（高校生以上）200円

連携している人々

- 商業施設
- NPO法人
- 九州産業大学 など

問い合わせ

●東区社協事務所
TEL 092-643-8922

活動のきっかけと内容

代表の吉田さんは、子育てがひと段落すると家族そろって食事をする機会が減ってしまい、「寂しい」と感じるようになりました。そこで、子どもから高齢者まで多世代が集う「地域食堂」を始めれば、同じような思いをしている人が集まる場になったり、子育てがひと段落したからこそ子育て世代の助けに少しでもなるのではないかと立ちました。会場を探していたところ、商業施設「ランチ福岡下原」のコミュニティスペースを見つけました。管理する「まちスポ福岡東」が代表の思いに賛同し、無償でスペースを提供してくれることになり、『みんな食Minna』が立ち上がりました。



みんなでごはんを食べたいという思いは子どもも大人も同じという考えから、対象者は子どもに限定せず、親子・高齢者も歓迎しています。

活動の工夫

コミュニティスペースで知り合った人がボランティアとして参加し、SNSでの発信や口コミが参加者の広がりにつながっています。

また隣室では、近くの九州産業大学の学生たちが子どもたちの相手や学習支援もしてくれるなど、多世代の交流も広がっています。



今後の展望

子育て世帯が週に一度でも夕食の準備から解放されて、親子でゆっくり食事ができる場を提供したいという思いで始めた『みんな食Minna』ですが、参加者から「帰って風呂入って寝るだけとか神すぎる」という感想をいただき、さらに「みんな食Minna」が特別なものではなく、日常になっていると感じて嬉しく思います。

『みんな食Minna』を“させてもらっている”という感謝の気持ちで、これからも無理なく楽しく活動が続けていくようにしています。

地域住民が公民館で 笑顔になれる居場所を

ボラン
ティア

公民館



子どもも高齢者も 誰もが食事を通じて交流

ボラン
ティア
教会



▲ホームページは
コチラ

大原すまいるキッチン

地域の概要

大原校区は国道202号、東側には原通りに接し、校区の南を「太間通り」が、東西を「あいさつ通り」が貫く平坦地で、UR原団地と原3、4丁目で構成する住宅地。

大原校区FF(エフエフ)運動(子どもたちのふるさと大原・ふれあいのまち大原)を展開し、将来子どもたちが「自分のふるさとは大原だ」と言えるようなまちづくりを実践している。毎年「無灯火」「ゼロ」運動や「室見川水系一斉清掃」、「フラワータウンプロジェクト」、「灯明まつり」など、地域の環境向上や活性化につなげるための各種イベントが開催されている。

- 人口・世帯数：7,850人・4,172世帯
- 高齢化率：31.5%
- 年少人口率：10.6% (0歳～14歳)
- 単身高齢世帯率：18.5% (65歳以上)

運営団体の概要

- 団体名：大原すまいるキッチン
- 開始：令和2年8月
- 会場：早良区原4-8-13
大原公民館
- 開催日：毎月第1・3・5水曜
16:30～19:30
- 申込：当日受付制
- 参加料：子ども(高校生まで)無料

連携している人々

- 校区自治協議会
- 地域ボランティア
- 公民館
- 企業 など

問い合わせ

- 早良区社協事務所
TEL 092-832-7383

活動のきっかけと内容

副代表の中村さんは、コロナ禍で、人と人とのつながりが希薄になりつつあることに危機感を持ち、住民のみなさんの不安を少しでも軽減し、子どもから高齢者まで住民同士でつながれる居場所を作りたくて「大原すまいるキッチン」を地域のみなさんと立ち上げました。校区自治協議会、公民館の協力を得られていることに、メンバーは、心強く感じています。



活動の工夫

提供メニューは、カレーライス(第5水曜日のみオムライス)に決めているので準備の手順が確立しており、約15名のボランティアは受付・調理・配膳等、それぞれの持ち場で手際よく準備を進めていきます。ボランティアには企業からの参加もあります。また、多い時には利用者が150名を超えるため、受付で番号札を渡し、



食事スペースの入り状況を見ながらマイクで呼び込みをして混雑を避ける工夫をしています。

細かいことにこだわらず、無理せずゆるやかに活動することが長く続けるコツだと思っています。

今後の展望

同じテーブルを囲んで語り合い笑顔になり、ここに集うすべての人が当たり前の喜びや幸せを感じ合えるように、みんなを温かく包み込むような『大原すまいるキッチン』であり続けたいです。

地域の概要

西高宮校区は、都心部に近く、南区の北端に位置し北側は中央区に隣接している南区の中で一番人口が多い校区。西鉄平尾駅・高宮駅に隣接しており、交通の利便性もよいことや、緑が多いことなどから、マンション建設が進み、人口増に伴い、小学校の生徒数も1,100人超と南区で最も多くなっている。

校区自治協議会では、各種団体との連携・協力により、安全・安心なまちづくりをはじめ、スポーツから文化・芸術まで多彩な活動を進めている。中でも「あかりのともる新地まつり」は、地域住民が世代を超えて参加でき、次世代につないでいく新しい地域のシンボルとして始められたまつりである。

- 人口・世帯数：18,172人・9,039世帯
- 高齢化率：19.4%
- 年少人口率：14.8% (0歳～14歳)
- 単身高齢世帯率：9.4% (65歳以上)

運営団体の概要

- 団体名：こひつじの園ランチカフェ
- 開始：平成29年4月
- 会場：南区平和1-5-23
平尾バプテスト教会
- 開催日：毎月第3土曜10:00～14:30
- 申込：当日受付制
- 参加費：子ども(5歳以下)無料
18歳まで100円
18歳以上200円

連携している人々

- 教会
- 重症心身障害者施設
- 民生委員・児童委員 など

問い合わせ

- 南区社協事務所
TEL 092-554-1039

活動のきっかけと内容

もともと教会で開催していた未就学児の共同保育「つぼみ」の世話役の平良さんとお母さんたちが、何か集まれることをやりたいと平成29年に「こひつじの園ランチカフェ」を立ち上げました。

重症心身障害者施設の入所者の「外に出かけて食事をしたい」という声を知ったことをきっかけに、障がいのある方も利用できるようにしました。しかし、コロナ禍で弁当配付に切り替えたこともあり、会食が再開しても、感染リスクから、障がいの重い方の参加は、今も難しい状況です。



活動の工夫



実行委員代表の宮崎さんの他、多くのボランティアが関わり、高齢のボランティアも役割を持って参加しています。近頃は、親子連れに加えて民生委員・児童委員が誘った地域の高齢者もたくさん利用しています。

年1回は地域の高齢者が講師となって、手作り味噌づくりを行い、低価格で参加者の方々に譲ったり、ミニコンサートを開くなど、交流の場を準備するなどの工夫をしています。

今後の展望

災害の多い時代にこの会食に参加してもらうことで、参加者に教会が災害時の避難場所として認識してもらうことを考えています。

ボランティアには大学生もいますが、多世代にわたる方々がボランティアや利用者として関わることは、居場所の役割として大きいと考えます。

人と人が自然に結びつく 居場所づくり

専門職
教会



▲Instagramは
こちら

高齢者の「孤食」を無くし 誰もが集える居場所

ボラン
ティア

レンタル
ルーム



ひばるん子ども食堂

地域の概要

西花畑校区は、花畑校区から分離し、福岡外環状道路の北側の血山地区、南側の松原地区に分かれている。南区では2番目に面積が広い校区で、自然が豊かで、松原運動公園や花畑園芸公園などの大規模公園がある。

平成26年に人権尊重推進協議会創立20周年を記念して久屋池で灯明まつりが行われ、この催しが大変好評であったため、皆が参加する校区イベントとして、以後、毎年実施されている。

- 人口・世帯数：12,783人・5,878世帯
- 高齢化率：27.4%
- 年少人口率：16.5%（0歳～14歳）
- 単身高齢世帯率：12.8%（65歳以上）

運営団体の概要

- 団体名：ひばるん子ども食堂
- 開始：令和4年9月
- 会場：南区松原2-54-8
福岡南キリスト教会
- 開催日：毎月第3水曜
16:00～20:00
- 申込：当日受付制
- 参加料：子ども無料・大人300円

連携している人々

- 小・中学校
- フリースクール
- 校区社会福祉協議会 など

問い合わせ

- 南区社協事務所
TEL 092-554-1039

活動のきっかけと内容

教会の牧師であり、幼稚園の園長や里親でもあった代表の有志さんは、退職後に「ファミリーホーム(※)」の運営に携わっている中で、子どもたちの居場所の必要性を感じていました。

その後、勤めていた幼稚園の保護者OBの後押しもあり、教会を会場として令和4年9月に『ひばるん子ども食堂』を立ち上げました。



活動の工夫

不登校の子どもが、中学校の教師やスクールカウンセラーとともに食事をしながら、進路の相談をする光景があります。他にも近



隣にあるフリースクールの講師が参加するなど、ここを起点に人と人のつながりが、新たな人との結びつきを生み出し、活動の輪が広がっています。

また、近隣の高齢者世帯へ配食するなど、細やかな気配りにも溢れています。

今後の展望

ボランティアは、幼稚園の保護者OBや地域の民生委員・児童委員、スクールソーシャルワーカーなどが携わっていますが、参加している中学生がお手伝いに戻るなど、参加者が協力する姿も随所に見られます。多いときには100名を超える参加者があっても、支障なく運営されており、1年でも長くみんなの居場所として続くことを願っています。

※ファミリーホーム（小規模住居型児童養育事業）

さまざまな理由で家族と暮らせない子どもを、養育里親経験者などが養育者として家庭に子どもを迎え入れて育てる事業。

地域の概要

長尾校区は、福岡市の中央部に位置し、交通の便も良く、油山観光道路を中心に商店が連なり、住宅が広がっている校区。校区の中心に樋井川が流れており、5月に鯉のぼりを飾ったり、定期的な清掃を通して、樋井川を守り自然に親しむ活動に取り組んでいる。

また、校区内には、黒田家第6代藩主継高公の別荘だった「友亭」を池泉回遊式日本庭園として整備した歴史公園「友亭公園」がある。

校区内の中央部に位置する長尾小学校は、明治6年創設で、令和5年で150年を迎えた歴史と伝統のある小学校である。

- 人口・世帯数：12,652人・6,526世帯
- 高齢化率：26.9%
- 年少人口率：12.3%（0歳～14歳）
- 単身高齢世帯率：12.6%（65歳以上）

運営団体の概要

- 団体名：長尾じじばば子ども食堂
- 開始：令和4年4月
- 会場：城南区長尾
会場移転予定
- 開催日：毎月第3土曜
12:00～15:00
- 申込：当日受付制
- 参加料：子ども無料・大人300円

連携している人々

- 校区自治協議会
- 民生委員・児童委員
- 企業 など

問い合わせ

- 城南区社協事務所
TEL 092-832-6427

活動のきっかけと内容

代表の明石さんは、長年長尾校区で夫婦で写真館を運営する中で、多くの高齢者の方々と接してきました。夫がパーキンソン病になったことをきっかけに健康づくりに関心を持ち、有機野菜など食事の大切さを感じ、また高齢者や子どもなどがひとりで弁当を買っている姿に「孤食」の姿を想像し、食事を提供する取組みを始めました。

食堂の名称には、『じじばば子ども』の名前が示すとおり、地域の高齢者や子どもが集い、食を通して笑顔の交流が広がってほしいとの願いを込めています。

親子連れや中学生同士での利用とともに高齢者も多く参加し、多世代交流の場となっています。



活動の工夫

食材は、企業や個人の方からの寄付や、自ら無農薬野菜を調達するなど、こだわりを持って調理をしています。さらに近くのペカリーの協力により、キャラクターの提供などを受け、参加している子どもたちに持ち帰ってもらっています。



会場の外にのぼり旗やポスターを掲示して周知していますが、口コミの力が大きく、多いときには60名近い参加につながっています。

今後の展望

多世代の交流は、自然発生的に参加者の中で生まれています。将来的には、不登校の子ども達の居場所になったり、特別支援学校の卒業生の受け入れができればいいと考えています。

今、ボランティア数名で運営していますが、若い人のやりたいことを応援していきたいと考えており、新たなボランティアが参加してくれることを期待しています。

地域住民のこころの 拠り所となる居場所づくり

ボラン
ティア

教会

南区
三宅校区

ハレルヤ食堂

地域の概要

三宅校区は、南区の中央部に位置し、西鉄大橋駅に近く、また、国道385号線や福岡筑紫野線、長浜太宰府線と主要な道路が通り、交通の利便性が高い校区。

三宅は、古代、那珂川の河口にあたり、大和朝廷はここに筑紫近辺の支配を強化するために筑紫官家（つくしのみやけ）を設置したとされており、これが名前の由来となったと伝えられている。

校区の活動では、安全・安心まちづくりネットワークや青色防犯パトロール「青パト隊みやけ」、三宅のまつりを考える会などの各種団体が構成された自治協議会を中心に一致団結した活発な活動が行われている。

- 人口・世帯数：18,120人・9,857世帯
- 高齢化率：20.5%
- 年少人口率：13.2%（0歳～14歳）
- 単身高齢世帯率：9.8%（65歳以上）

運営団体の概要

- 団体名：ハレルヤ食堂
- 開始：平成28年9月
- 会場：南区三宅3-33-1
福岡新生キリスト教会
- 開催日：毎月第1・3木曜
15:30～18:30
- 申込：当日受付制
- 参加料：子ども無料（テイクアウト時100円）
大人200円

連携している人々

- フードバンク福岡
- ふくおか子ども食堂ネットワーク
- グリーンコープ
- 教会 など

問い合わせ

- 南区社協事務所
TEL 092-554-1039

活動のきっかけと内容

代表の川本さんがこの活動を思い立ったのは、教会での活動を通じて歯がボロボロの状態の子どもに出会い、心を痛めたことがきっかけでした。同居する家族が仕事で忙しく、子どもへのケアが行き届いていないことがわかり、この子と食を通じて関わりを持れば何か力になれるのではと考えました。また、家でひとりで過ごす時間が長くて寂しいと感じる人や、悩みを抱える人の心のよりどころを作りたいという思いもあり、開催場所として教会に相談。思いに賛同した仲間と一緒に『ハレルヤ食堂』を始めることになりました。

立ち上げ当初から、子どもから高齢者まで誰でも受け入れるスタイルで活動しています。



活動の工夫

最初は70食を準備して会場内は子どもの声で賑やかでした。コロナ禍で活動自粛の決断を迫られる中、「こんなときだからこそ活動を続けなければ!」という仲間の声でテイクアウト制を導入しました。とても好評で、今では250食を準備しています。

現在は、イートインとテイクアウトを自由に選べるようにしています。テイクアウトを希望する人は各自でお弁当箱を持参してもらっているので、使い捨て容器は使っていません。お弁当箱に具材を詰める間の待ち時間はボランティアから積極的に話しかけて交流を深めています。

今後の展望

近くに住む高齢者が連れ立って集まり、いつもイートインスペースで談笑しています。小さな子どもを抱っこした若いお母さんは、家で待つおばあちゃんとお父さんと子どもの分にと4つのお弁当箱を持って帰ります。子どもから高齢者まで多世代が楽しく食事できる『ハレルヤ食堂』。物価高騰に負けずこれからも続けていきたいです。



子ども会活動を発端に 地域にある孤独・孤立を考える

子ども会 地域拠点

博多区
堅粕校区

ワンコインレストラン「ハーモニー」

地域の概要

堅粕校区は、九州の陸の玄関口であるJR博多駅を中心に発展した校区で、JR博多駅・地下鉄博多駅や博多バスターミナルの周辺には、さまざまな企業や商業施設が立地している。また、国の福岡合同庁舎や県の総合庁舎、博多区役所、博多警察署等の公共施設も多く立地している。校区内では単身向け住宅が増加し、単身世帯が多く、20歳代人口が多くなっている。

また、令和5年3月に地下鉄七隈線が博多駅まで延伸したことにより、より一層賑わいを増している。

- 人口・世帯数：11,026人・8,355世帯
- 高齢化率：15.2%
- 年少人口率：5.6%（0歳～14歳）
- 単身高齢世帯率：6.7%（65歳以上）

運営団体の概要

- 団体名：ニュー堅粕住宅子ども会
- 開始：令和3年10月
- 会場：博多区堅粕1-23-1
堅粕人權のまちづくり館
- 開催日：毎月第2・4土曜
11:00～14:00
- 申込：事前申込制
- 参加料：子ども・大人
いずれも100円

連携している人々

- ニュー堅粕住宅子ども会
- ニュー堅粕住宅自治会
- 堅粕人權のまちづくり館
- ボランティア など

問い合わせ

- 博多区社協事務所
TEL 092-436-3651

活動のきっかけと内容



子ども会の役員会で、食事を十分に取れていない子どもが学校の授業中に体調不良で倒れたという話を聞き、欠食をする子どもに何かできることはないかとみんなで考えていました。同時に、高齢者の孤立や孤食、孤独死に関する不安の声が民生委員・児童委員からも挙がっていたことから、孤食・欠食の改善と、子どもから高齢者までの見守りを目的としたワンコインレストラン『ハーモニー』を立ち上げました。

活動の工夫

現代社会では、子どもと高齢者が同じ家で暮らす「三世帯同居」が減少し、子どもが高齢者と接する機会が減っています。ワンコインレストラン『ハーモニー』は子どもたちにとって地域の高齢者との数少ない交流の場となっており、子どもと高齢者が同じ場所で食事することで自然と声をかけ合うようになり、子どもが高齢者に配膳してくれることもありました。

コロナ禍の後は、弁当提供に切り替えて活動を継続しています。毎回200食程度を提供しており、受付係を同じ人に固定することで、利用状況の把握と見守りにつながっています。



今後の展望

課題と考える「欠食」「孤独・孤食・孤立」の防止のためには、互いに声をかけ合い、小さなSOSを見逃さないこと、無関心にならないことが大切だと思っています。食事の大切さ、みんなで集まって温かいごはんを食べる楽しさを感じてもらえるように、これからも食を通じた地域のつながりづくりに取り組んでいきます。